

# vCloud Hybrid Service vSphere Client プ ラグインのインストールと構成

vSphere 5.5

このドキュメントは新しいエディションに置き換わるまで、  
ここで書いてある各製品と後続のすべてのバージョンをサ  
ポートします。このドキュメントの最新版をチェックする  
には、<http://www.vmware.com/jp/support/pubs> を参  
照してください。

JA-001499-01

vmware®

最新の技術ドキュメントは VMware の Web サイト (<http://www.vmware.com/jp/support/>) にあります  
VMware の Web サイトでは最新の製品アップデートも提供されています。

このドキュメントに関するご意見およびご感想がある場合は、[docfeedback@vmware.com](mailto:docfeedback@vmware.com) までお送りください。

Copyright © 2013, 2014 VMware, Inc. 無断転載を禁ず。著作権および商標情報.

**VMware, Inc.**  
3401 Hillview Ave.  
Palo Alto, CA 94304  
[www.vmware.com](http://www.vmware.com)

**VMware株式会社**  
105-0013 東京都港区浜松町 1-30-5  
浜松町スクエア 13F  
[www.vmware.com/jp](http://www.vmware.com/jp)

# 目次

vCloud Hybrid Service vSphere Client プラグイン のインストールと構成	5
1 vCloud Hybrid Service vSphere Client プラグインについて	7
2 システム要件	9
3 vCloud Hybrid Service プラグインのインストール	11
vSphere Web Client 5.5 Update 1 以降への vCloud Hybrid Service プラグインのインストール	11
vCloud Hybrid Service プラグイン 1.0.0 の vSphere Web Client 5.5 へのインストール	19
4 vCloud Hybrid Service アカウントの要求	25
5 vCloud Hybrid Service プラグインのアップグレード	27
vCloud Hybrid Service プラグインのアップグレードについて	27
vCloud Hybrid Service プラグインのアップグレード	27
6 vCloud Hybrid Service プラグイン 1.0.0 のアンインストール	31
7 ログ ファイルの使用	33
使用するログ ファイルの指定	33
vCHS.log ファイルのログ重大度レベルの設定	36
ログ ファイルの表示	36
8 トラブルシューティング	39
「インストールに失敗しました」エラー	39
インストール中またはアップグレード中の「認証に失敗しました」エラー	41
同じ SSO サービスを共有する複数の vSphere Web Client インスタンス	41
インデックス	43



# vCloud Hybrid Service vSphere Client プラグインのインストールと構成

---

vCloud Hybrid Service vSphere Client プラグインのインストールと構成では、VMware vSphere® Web Client 5.5 以降に vCloud Hybrid Service™ vSphere Client プラグインをインストールするための情報を記載しています。ここでは vSphere Web Client にプラグインをインストールする方法とともに、vCloud Hybrid Service™ アカウントを使用するためのプラグインの構成方法も説明します。また、より新しいバージョンのプラグインへアップグレードする方法についても説明します。

## 対象読者

この情報は、vSphere Web Client にある vCloud Hybrid Service のリソースを管理するシステム管理者を対象としています。この情報は、仮想マシンテクノロジーおよびデータセンター運用、VMware vSphere および vCloud Hybrid Service についてよく理解している、経験のあるシステム管理者を対象としています。

## 関連ドキュメント

- [vCloud Hybrid Service vSphere Client プラグインの使用](#)
- [VMware vCloud Hybrid Service ドキュメント](#)
- [VMware vSphere 5.5 ドキュメント](#)

## VMware の技術ドキュメントの用語集

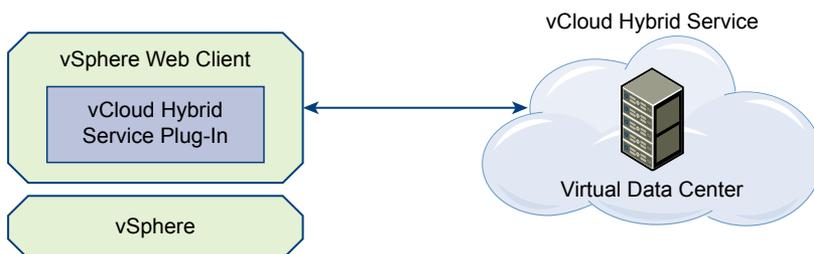
VMware の技術ドキュメントには、新しい用語などを集約した用語集があります。当社の技術ドキュメントで使用される用語の定義については、<http://www.vmware.com/support/pubs> をご覧ください。



# vCloud Hybrid Service vSphere Client プラグインについて

# 1

vCloud Hybrid Service vSphere Client プラグインを使用すると、vSphere Web Client にある vCloud Hybrid Service リソースの表示と管理が可能です。オンプレミス アプリケーションからパブリック クラウド リソースを管理できる、vCloud Hybrid Service の別のユーザー インターフェイスが提供されます。



プラグインをインストールし、vCloud Hybrid Service アカウントをプラグインに登録した後、すべての地域の専用クラウドおよび仮想プライベート クラウドのすべてのインスタンスを表示できます。各クラウド インスタンスを参照し、仮想データセンター、仮想マシン、ゲートウェイ、ネットワーク、およびテンプレートのインベントリを管理できます。仮想データセンターを（専用クラウドのインスタンスに）新規に作成し、ゲートウェイとネットワークを管理できます。vCloud Hybrid Service カタログのテンプレートから仮想マシンを新規に作成してネットワークに接続し、プラグインから管理できます。

vSphere Web Client に vCloud Hybrid Service プラグインがインストールされている場合は、1 つのウィンドウを使用してオンプレミス データセンターとパブリックの vCloud Hybrid Service リソースの両方を管理することもできます。

注意 このプラグインは vCloud Hybrid Service リソースを管理する管理者を対象としているため、vCloud Hybrid Service の管理者ユーザー ロールが必要です。エンド ユーザー ロールのユーザーはプラグインを使用できません。

## 主な機能

vCloud Hybrid Service プラグインの主な機能には、次のようなものがあります。

- リソースを購入した後に vCloud Hybrid Service ポータルを設定すると同様に vCloud Hybrid Service 環境全体を設定する機能

注意 ポータルで利用可能になっているコマンドの一部が、プラグインではまだ利用できる状態になっていません。詳細については、[vCloud Hybrid Service プラグインとポータルの相違点](#)を参照してください。

- ストレージ層

複数のストレージ層を仮想データセンターや仮想マシンに割り当てるなど、すべてのストレージ リソースをプラグインから管理できます。

- 災害復旧

vCloud Hybrid Service ディザスタ リカバリ サービスを購入した場合は、プラグインからディザスタ リカバリ仮想データ センターを管理できます。
- vCloud Hybrid Service プラグインとポータル同期

通知サービスにより、プラグインとポータルの同期が常時保たれます。ポータルで（同じユーザー名で）行う変更はすべてプラグインに反映されます。同様に、プラグインで行う変更はすべてポータルに反映されます。
- 統合されたタスク管理

vCloud Hybrid Service ポータルで（同じユーザー名で）実行するコマンドのタスクは、プラグインで実行するタスクと一緒に vSphere Web Client の [タスク] パネルに表示されます。
- vCloud Hybrid Service ポータルへのアクセス

プラグインの [vCloud Hybrid Service ポータルで管理] リンクを使用して、vCloud Hybrid Service ポータルにアクセスできます。ポータルにログインすると、プラグインでは使用できないタスクを実行できます。
- vCloud Director へのシングル サインオン

プラグインの [vCloud Director UI で管理] リンクを使用して、クラウド インスタンスの基盤となる vCloud Director インスタンスにアクセスできます。vCloud Director を使用すると、高度な管理タスクを実行できます。

## システム要件

vCloud Hybrid Service vSphere Client プラグインを使用するには、Web Client 5.5 以降と Web ブラウザが必要です。vSphere Web Client のシステム要件はプラグインにも適用されます。

表 2-1. システム要件

要件	バージョン
vSphere Web Client	[5.5 Update 1 以降] vSphere Web Client 5.5 Update 1 以降では、vSphere Web Client ホーム ページで取得できるインストーラを使用して、vCloud Hybrid Service プラグインの最新バージョン (バージョン 1.0.1 以降) をインストールできます。 [5.5] vSphere Web Client 5.5 では、vCloud Hybrid Service プラグイン 1.0.0 のみをインストールできます。これは、My VMware でダウンロードして入手できます。後続のバージョンのインストールや、1.0.0 から最新バージョンへのアップグレードはできません。
Web ブラウザ	次の例外リストを除き、プラグインのブラウザ要件は vSphere Web Client と同じです。詳細は、 <a href="#">vSphere Web Client のソフトウェア要件</a> を参照してください。
vSphere Web Client の他の要件	詳細は、 <a href="#">vSphere Web Client のソフトウェア要件</a> を参照してください。

## アカウントの要件

次のアカウントが必要です。

- 管理者ユーザー ロールが割り当てられている vCloud Hybrid Service アカウント

vCloud Hybrid Service ポータル内と同じ権限がプラグイン内にあります。権限はユーザー名に関連付けられます。タスクごとにさまざまなレベルの権限が必要です。

プラグインは管理者を対象にしているため、アカウント管理者、仮想インフラストラクチャ管理者、ネットワーク管理者、読み取り専用管理者、またはサブスクリプション管理者の、いずれかの管理者ユーザー ロールが必要です。エンド ユーザー ロールではプラグインは使用できません。

vCloud Hybrid Service 内のユーザー ロールおよび権限の詳細については、[VMware vCloud Hybrid Service ユーザー ガイド](#)を参照してください。

- vCenter Server のアカウント

vSphere Web Client 5.5 Update 1 以降のプラグインをインストールまたはアップグレードするには、vCenter Server Single Sign-on 管理者権限が必要です。

vSphere Web Client 5.5 にプラグインをインストールするには、管理者ロール、または拡張機能権限が含まれるユーザー ロールが必要です。

プラグインを使用するには、いずれかのユーザー ロールが必要です。

## 接続の要件

次の接続の要件を満たすように環境をセットアップします。

### ■ vCenter Server 用のインターネット接続

インターネットに接続できるように、vSphere Web Client を前提として、ネットワークが vCenter Server 用にセットアップされている必要があります。これは、プラグインのインストールまたはアップグレード、プラグインを使用した vCloud Hybrid Service アカウントの登録、およびプラグインの使用に必要とされます。

### ■ ファイアウォール設定

vCloud Hybrid Service プラグインは、vCloud Hybrid Service ポータルおよびクラウド インスタンスの基盤となる vCloud Director API エンドポイントに接続します。次の URL を許可するようにファイアウォール設定を構成します。

#### ■ <https://vchs.vmware.com>

#### ■ vCloud Director API URL

この URL を取得するには、vCloud Hybrid Service ポータルにログインし、ダッシュボードで仮想データセンターをクリックして、[関連リンク] の下の [vCloud Director API URL] リンクをクリックします。

ポート 443 は両方の接続に使用されます。

### ■ プロキシ設定

vSphere Web Client 5.5 Update 1 以降では、バージョン 1.5 以降の vCloud Hybrid Service プラグインと、vCloud Hybrid Service プラグイン インストーラのどちらも、vSphere Web Client **webclient.properties** ファイルで指定されたプロキシ設定を使用します。詳細については、[プロキシ設定の指定](#)を参照してください。

# vCloud Hybrid Service プラグインのインストール

# 3

vCloud Hybrid Service プラグインを vSphere Web Client で使用するには、プラグインをインストールし、vCloud Hybrid Service アカウントをプラグインに登録する必要があります。また、vCloud Hybrid Service ポータルの SSL 証明書をダウンロードし、vSphere Web Client の信頼されるキーストアにインポートする必要があります。

vSphere Web Client の基盤となる vCenter Server からインターネットに接続できるように、環境のネットワークをセットアップする必要があります。この作業は、プラグインをインストール、アップグレード、または使用するときに必要です。第 2 章「システム要件 (P. 9)」も参照してください。

vCloud Hybrid Service プラグインは、vSphere Web Client 5.5 以降にインストールできます。

- vSphere Web Client 5.5 では、バージョン 1.0.0 のプラグインのみをインストールできます。このバージョンは、My VMware からダウンロードして入手できます。詳細については、「[vCloud Hybrid Service プラグイン 1.0.0 の vSphere Web Client 5.5 へのインストール \(P. 19\)](#)」を参照してください。
- vSphere Web Client 5.5 Update 1 以降では、vSphere Web Client の [ホーム] ページで取得できるインストーラを使用して、プラグインの最新バージョン (バージョン 1.0.1 以降) をインストールできます。詳細については、「[vSphere Web Client 5.5 Update 1 以降への vCloud Hybrid Service プラグインのインストール \(P. 11\)](#)」を参照してください。

この章では次のトピックについて説明します。

- [vSphere Web Client 5.5 Update 1 以降への vCloud Hybrid Service プラグインのインストール \(P. 11\)](#)
- [vCloud Hybrid Service プラグイン 1.0.0 の vSphere Web Client 5.5 へのインストール \(P. 19\)](#)

## vSphere Web Client 5.5 Update 1 以降への vCloud Hybrid Service プラグインのインストール

vCloud Hybrid Service プラグイン インストーラを使用して、vCloud Hybrid Service プラグインを vSphere Web Client 5.5 Update 1 以降にインストールします。インストーラはデフォルトでは vSphere Web Client の [ホーム] ページの [インベントリ] にあります。

### vSphere Web Client 5.5 Update 1 へのインストール

[vSphere Web Client ホーム] ページの [インベントリ] にある vCloud Hybrid Service インストーラを使用して、プラグインをインストールします。



インストーラは、指定された認証情報を使用して My VMware に接続し、vCloud Hybrid Service プラグインをダウンロードし、それを vSphere Web Client にインストールします。インストーラは常に、使用可能な最新バージョンのプラグインをインストールします。

プラグインがインストールされると、プラグインのアイコン (  ) が、インストーラ アイコンの代わりに vSphere Web Client の [ホーム] ページに表示されます。このアイコンをクリックすることで、プラグインにアクセスし、vCloud Hybrid Service アカウントを登録できます。

vCloud Hybrid Service インストーラを使用して vCloud Hybrid Service プラグインのアップグレードを行うこともできます。現在インストールされているバージョンの情報と使用可能な更新は、プラグインの [はじめに] ページに表示されます。[最新の更新をインストール] リンクをクリックすると、プラグインを最新バージョンに更新できます。

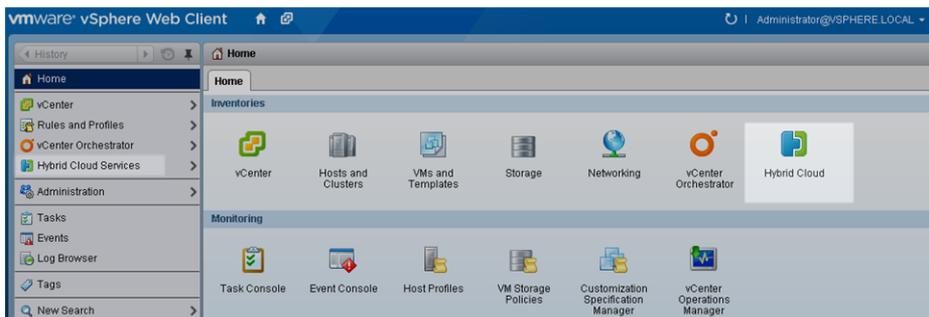
プラグインをインストールまたはアップグレードするには、administrator@vsphere.local などの vCenter Server Single Sign-on の管理者権限を持つアカウントを使用する必要があります。vCenter Server Single Sign-on の管理者権限は、vCenter Server の管理者ロールとは異なります。詳細については、[VMware vSphere 5.5 ドキュメントセンター](#)を参照してください。

プラグインをインストール、アップグレード、または使用するには、vCenter Server からインターネットへの接続が可能であることも確認する必要があります。詳細については、[第 2 章「システム要件 \(P. 9\)」](#)を参照してください。

**注意** vCloud Hybrid Service プラグイン 1.0.0 を vSphere Web Client 5.5 にインストールし、その後 vSphere Web Client 5.5 を 5.5 Update 1 以降にアップグレードした場合は、アップグレード後も引き続きプラグインが表示されます。しかし、プラグインのバージョン 1.0.0 は vSphere Web Client 5.5 Update 1 以降とは互換性がありません。このような場合はまず、1.0.0 バージョンに付属のスクリプトを使用してプラグインの 1.0.0 バージョンを vSphere Web Client からアンインストールし、次に、vSphere Web Client 5.5 Update 1 以降で提供されている vCloud Hybrid Service プラグインのインストーラを使用して、プラグインの最新バージョンをインストールします。詳細については [第 6 章「vCloud Hybrid Service プラグイン 1.0.0 のアンインストール \(P. 31\)」](#)を参照してください。

## vSphere Web Client 5.5 Update 2 へのインストール

Hybrid Cloud のインストーラは、[vSphere Web Client ホーム] ページの [インベントリ] にあります。インストーラは、ナビゲーション ペインの [Hybrid Cloud Services] をクリックして入手することもできます。



vCloud Hybrid Service プラグインをインストールするには、[ハイブリッドクラウド] アイコン () をクリックしてから、[はじめに] ページにある [vCloud Hybrid Service プラグインのインストール] リンクをクリックします。

インストーラは、指定された認証情報を使用して My VMware に接続し、vCloud Hybrid Service プラグインをダウンロードし、それを vSphere Web Client にインストールします。インストーラは常に、使用可能な最新バージョンのプラグインをインストールします。

プラグインをインストールすると、vSphere Web Client の [ホーム] ページにある [ハイブリッドクラウド] アイコン () から vCloud Hybrid Service プラグインにアクセスし、vCloud Hybrid Service アカウントをプラグインに登録できます。

Hybrid Cloud インストーラを使用して vCloud Hybrid Service プラグインのアップグレードを行うこともできます。現在インストールされているバージョンの情報と使用可能な更新は、プラグインの [はじめに] ページに表示されます。[最新の更新をインストール] リンクをクリックすると、プラグインを最新バージョンに更新できます。

プラグインをインストールまたはアップグレードするには、administrator@vsphere.local などの vCenter Server Single Sign-on の管理者権限を持つアカウントを使用する必要があります。vCenter Server Single Sign-on の管理者権限は、vCenter Server の管理者ロールとは異なります。詳細については、[VMware vSphere 5.5 ドキュメント センター](#) を参照してください。

プラグインをインストール、アップグレード、または使用するには、vCenter Server からインターネットへの接続が可能であることも確認する必要があります。詳細については、[第2章「システム要件 \(P. 9\)」](#) を参照してください。

---

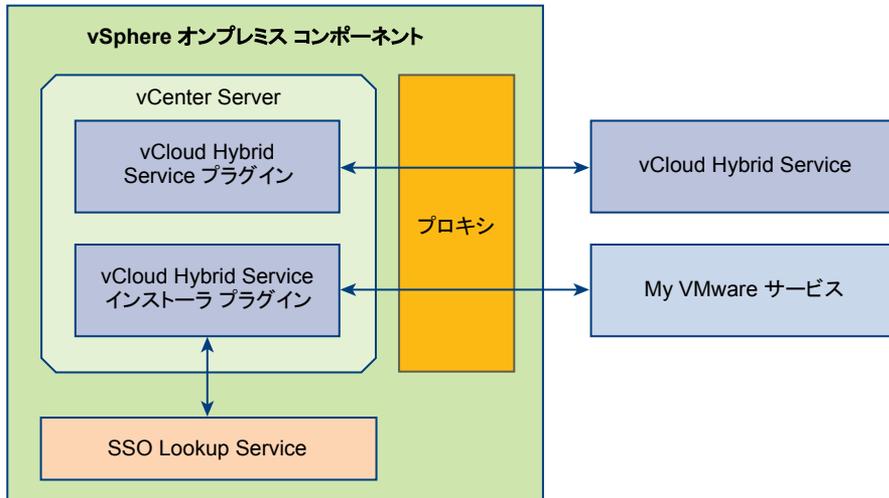
注意 vCloud Hybrid Service プラグイン 1.0.0 を vSphere Web Client 5.5 にインストールし、その後 vSphere Web Client 5.5 を 5.5 Update 1 以降にアップグレードした場合は、アップグレード後も引き続きプラグインが表示されます。しかし、プラグインのバージョン 1.0.0 は vSphere Web Client 5.5 Update 1 以降とは互換性がありません。このような場合はまず、1.0.0 バージョンに付属のスクリプトを使用してプラグインの 1.0.0 バージョンを vSphere Web Client からアンインストールし、次に、vSphere Web Client 5.5 Update 1 以降で提供されている vCloud Hybrid Service のインストーラを使用して、プラグインの最新バージョンをインストールします。詳細については[第6章 \[vCloud Hybrid Service プラグイン 1.0.0 のアンインストール \(P. 31\)\]](#) を参照してください。

---

## vCloud Hybrid Service プラグインのコンポーネント

1.0.1 リリース以降の vCloud Hybrid Service プラグインは、vCloud Hybrid Service プラグイン インストーラと vCloud Hybrid Service プラグインの2つのコンポーネントを備えています。インストーラは、デフォルトで vSphere Web Client に表示され、これを使用することで vCloud Hybrid Service プラグインをインストールおよびアップグレードできます。インストーラを実行すると、vCloud Hybrid Service プラグインが My VMware からダウンロードされ、vSphere Web Client にインストールされます。

これらのコンポーネントは、以下に示すように、オンプレミスの他の vSphere コンポーネント、My VMware、および vCloud Hybrid Service と通信します。また、vCenter Server がインターネットに接続できるようにネットワークをセットアップする必要があります。これは、インストーラがインストールとアップグレードを行うために My VMware サービスに接続し、vCloud Hybrid Service プラグインが vCloud Hybrid Service に接続するために必要です。



コンポーネント間の認証には、次の認証情報が必要です。

表 3-1. コンポーネント間の認証

コンポーネント	認証
vCloud Hybrid Service インストーラと SSO Lookup Service との間	SSO 管理者の認証情報
vCloud Hybrid Service インストーラと My VMware サービスとの間	My VMware の認証情報
vCloud Hybrid Service プラグインと vCloud Hybrid Service との間	vCloud Hybrid Service の認証情報

詳細については、第 2 章「システム要件 (P. 9)」を参照してください。

注意 このトピックの情報は、vSphere Web Client 5.5 Update 1 以降にインストールされた、vCloud Hybrid Service プラグイン 1.0.1 以降に適用されます。

## プロキシ設定の指定

vCloud Hybrid Service プラグイン インストーラは、vCloud Hybrid Service プラグインを My VMware (<https://my.vmware.com>) からダウンロードします。vSphere Web Client がこのサイトにアクセスするためにプロキシサーバを経由する必要がある場合は、インストーラを使用する前に、vSphere Web Client の `webclient.properties` ファイルでプロキシ設定を指定する必要があります。

`webclient.properties` ファイルに設定されているすべてのプロキシ設定は、vCloud Hybrid Service プラグインのバージョン 1.5 以降でも使用されます。

### 手順

- 1 vSphere Web Client がインストールされているコンピュータで、`webclient.properties` ファイルを探します。
  - Windows の場合、このファイルは `C:\ProgramData\VMware\vSphere Web Client` ディレクトリにあります。

注意 VMware ディレクトリの場所は、Windows OS のバージョンによって異なる場合があります。アプリケーションデータやプログラムデータのフォルダで、VMware ディレクトリを探します。
  - Linux の場合、このファイルは `/var/lib/vmware/vsphere-client` ディレクトリにあります。

- 2 このファイルを編集して、次のプロキシ プロパティを追加します。

```
proxyHost = <プロキシ サーバのホスト名>
proxyPort = <プロキシ サーバのポート>
proxyUser = <プロキシ サーバのユーザー名(プロキシ サーバで認証が求められる場合にのみ必要)>
proxyPassword = <プロキシ サーバのパスワード(プロキシ サーバで認証が求められる場合にのみ必要)>
```

- 3 vSphere Web Client サービスを再起動します。

- Linux の場合は、次のコマンドを使用します。

```
service vsphere-client stop
service vsphere-client status
service vsphere-client start
```

- Windows の場合は、次のコマンドを使用します。

```
sc stop vspherewebclientsvc
sc query vspherewebclientsvc
sc start vspherewebclientsvc
```

例: webclient.properties ファイルのプロキシ プロパティ

```
proxyHost = 100.0.0.1
proxyPort = 1080
proxyUser = test
proxyPassword = *****
```

次に進む前に

[\[vCloud Hybrid Service プラグインの vSphere 5.5 Update 1 以降へのインストール \(P. 15\)\]](#)

## vCloud Hybrid Service プラグインの vSphere 5.5 Update 1 以降へのインストール

vCloud Hybrid Service プラグインのインストーラを使用して、vCloud Hybrid Service プラグインを vSphere Web Client 5.5 Update 1 以降にインストールします。

インストール中にエラーが発生した場合は、[はじめに] ページ上部の黄色いメッセージ バーにエラー メッセージが表示されます。また、ログ ファイルでもエラーの情報を確認できます。詳細については、[第 7 章「ログ ファイルの使用 \(P. 33\)」](#)を参照してください。

---

注意 vCloud Hybrid Service プラグイン 1.0.0 を vSphere Web Client 5.5 にインストールし、その後 vSphere Web Client 5.5 を 5.5 Update 1 以降にアップグレードした場合は、アップグレード後も引き続きプラグインが表示されます。しかし、プラグインのバージョン 1.0.0 は vSphere Web Client 5.5 Update 1 以降とは互換性がありません。この場合、まずプラグインのバージョン 1.0.0 を、このバージョンと一緒に提供されているスクリプトを使用して vSphere Web Client からアンインストールし、次に、vSphere Web Client 5.5 Update 1 以降で入手可能な vCloud Hybrid Service プラグイン インストーラを使用してプラグインの最新バージョンをインストールします。詳細については [第 6 章「vCloud Hybrid Service プラグイン 1.0.0 のアンインストール \(P. 31\)」](#)を参照してください。

---

開始する前に

- My VMware アカウント。

インストーラは、ユーザーの認証情報を使用して My VMware にログインし、プラグインをダウンロードします。

- Single Sign-on 管理者権限のある vCenter Server アカウント (administrator@vsphere.local など)。

注意 Active Directory を使用してユーザーを管理する場合は、プラグインのインストールまたはアップグレードに使用するユーザー アカウントに対して次を実行してください。

- Active Directory ユーザーを Active Directory グループのメンバーとして追加します。
- その Active Directory グループを Administrators@vsphere.local グループのメンバーとして追加します。

これは、プラグインのインストールまたはアップグレードに必要な権限を取得するために必要です。

- vCenter Server からのインターネット接続。

vCenter Server からインターネットに接続できるように、vCenter Server のネットワークをセットアップする必要があります。vCloud Hybrid Service プラグインをダウンロードするため、プラグインのインストーラを MyVMware REST API エンドポイントに接続する必要があります。トラブルシューティングの情報については、「[「インストールに失敗しました」エラー \(P. 39\)](#)」を参照してください。第 2 章「[システム要件 \(P. 9\)](#)」も参照してください。

- My VMware にアクセスするためにプロキシ サーバを経由する必要がある場合は、vSphere Web Client のプロキシを設定します。「[プロキシ設定の指定 \(P. 14\)](#)」を参照してください。

#### 手順

- vSphere Web Client に、vCenter Server Single Sign-on 管理者権限 (administrator@vsphere.local など) を使用してログインします。
- [ホーム] ページで、使用中の vSphere Web Client のバージョンに適したオプションを選択します。
  - vSphere Web Client 5.5 Update 1 の場合は、[インベントリ] の [vCloud Hybrid Service インストーラ] アイコン  をクリックします。
  - vSphere Web Client 5.5 Update 2 以降の場合は、[インベントリ] の [ハイブリッドクラウド] アイコン  をクリックします。

vCloud Hybrid Service の [はじめに] ページが表示されます。

注意 プラグインのバージョン 1.0.0 が以前インストールされていた場合、ページ上部の黄色いメッセージ バーにエラー メッセージが表示されます。インストールを続行する前に、バージョン 1.0.0 をアンインストールする必要があります。第 6 章「[vCloud Hybrid Service プラグイン 1.0.0 のアンインストール \(P. 31\)](#)」を参照してください。

- vCloud Hybrid Service の [はじめに] ページで、[基本タスク] の [vCloud Hybrid Service プラグインのインストール] リンクをクリックします。
- [vCloud Hybrid Service プラグインのインストール] ダイアログ ボックスで、次の手順を実行します。
  - My VMware のユーザー名およびパスワードを入力します。
  - チェック ボックスを選択して、vCloud Hybrid Service プラグインの使用条件に同意します。
  - [Install] をクリックします。

ダウンロードが完了すると、[はじめに] ページ上部のメッセージ バーに「**Log out and log back in to complete the installation.**」というメッセージが表示されます。

注意 「**Installation failed. Try installing again.**」というエラーが表示されたら、vCenter Server がインターネットに接続できるかどうかを確認してください。トラブルシューティング情報については、「[「インストールに失敗しました」エラー \(P. 39\)](#)」を参照してください。

- vSphere Web Client からログアウトし、再度ログインします。ここでは、任意のユーザー ロールでログインできます。

vCloud Hybrid Service プラグイン アイコン  が、[インベントリ] の [ホーム] ページに表示されます。アイコンをクリックして、プラグインを使用できます。

次に進む前に

vCloud Hybrid Service ポータルの SSL 証明書をダウンロードし、vSphere Web Client の信頼されるキーストアに追加します。その後、vCloud Hybrid Service アカウントをプラグインに登録します。

## vSphere Web Client の信頼されるキーストアへの証明書の追加

インストール プロセスの一環として、vCloud Hybrid Service Web サイト (<https://vchs.vmware.com>) の SSL 証明書を、vSphere Web Client の信頼されるキーストアに追加する必要があります。この証明書は、プラグインが、タスク情報を提供する通知サービスに接続する際に必要となります。

手順

- 1 <https://vchs.vmware.com> に移動し、Web ブラウザからサイトの証明書をダウンロードします。

**vchs.cer** という名前で証明書を保存します。

注意 証明書をエクスポートする際は、[Base-64 encoded x.509] オプションを必ず選択してください。

オプション	説明
Firefox	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ URL フィールドの鍵アイコンをクリックし、[詳細情報] をクリックします。</li> <li>■ [セキュリティ] タブで、[証明書の表示] をクリックします。</li> <li>■ [詳細] タブで、[エクスポート] をクリックします。</li> <li>■ <b>vchs.cer</b> という名前でファイルを保存し、[X.509 Certificate (PEM)] と入力します。</li> </ul>
Internet Explorer	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ URL フィールドの鍵アイコンをクリックし、[証明書の表示] をクリックします。</li> <li>■ [詳細] タブで [ファイルにコピー] をクリックし、ウィザードに従って証明書をエクスポートします。</li> <li>■ 形式として [Base-64 encoded X.509 (.CER)] を選択し、ファイルに <b>vchs.cer</b> という名前を付けます。</li> </ul>
Chrome	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ URL フィールドで鍵アイコンをクリックします。</li> <li>■ [接続] タブで、[証明書情報] をクリックします。</li> <li>■ [詳細] タブで [ファイルにコピー] をクリックし、ウィザードに従って証明書をエクスポートします。</li> <li>■ [Base-64 encoded X.509 (.CER)] 形式を選択し、ファイルに <b>vchs.cer</b> という名前を付けます。</li> </ul>

- 2 vSphere Web Client の信頼されるキーストアに証明書を追加します。

- Windows の場合は、次のコマンドを使用します。

```
"C:\Program Files\Java\jre7\bin\keytool.exe" -alias vchs -v -keystore
"C:\Program
Files\VMware\Infrastructure\vSphereWebClient\server\configuration\keystore" -
storepass changeit -import -file <path_to_file>\vchs.cer
```

- Linux の場合は、次のコマンドを使用します。

```
/usr/java/jre-vmware/bin/keytool -alias vchs -v -keystore /usr/lib/vmware-
vsphere-client/server/configuration/keystore -storepass changeit -import -file
<path_to_file>/vchs.cer
```

次に進む前に

vCloud Hybrid Service アカウントをプラグインに登録します。

## vCloud Hybrid Service アカウントの登録

vCloud Hybrid Service プラグインをインストールしたら、vSphere Web Client のクラウド リソースを管理するため、vCloud Hybrid Service アカウントをプラグインに登録する必要があります。

vSphere Web Client の `webclient.properties` ファイルで設定されているプロキシ設定が使用されます。プロキシ設定は通常インストール時に設定します。詳細については、[プロキシ設定の指定](#)を参照してください。

### 開始する前に

- vCloud Hybrid Service アカウントのユーザー名とパスワードを持っています。管理者ユーザー ロールが必要です。エンド ユーザー ロールではプラグインは使用できません。

注意 プラグインでは、ユーザー名に関連付けられている権限は、vCloud Hybrid Service で同じユーザー名に関連付けられている権限と同一です。

### 手順

- 1 vSphere Web Client の [ホーム] ページで、使用中の vSphere Web Client のバージョンに適したオプションを選択してください。
  - vSphere Web Client 5.5 Update 1 で、[インベントリ] にある [vCloud Hybrid Service] アイコン (  ) をクリックします。
  - vSphere Web Client 5.5 Update 2 以降の場合は、[インベントリ] の [ハイブリッドクラウド] アイコン (  ) をクリックします。
- 2 [サマリ] タブをクリックします。
- 3 [vCloud Hybrid Service アカウントの登録] をクリックします。
- 4 [vCHS アカウントの登録] ダイアログ ボックスで、以下の情報を入力します。

オプション	説明
vCHS サーバ	vCloud Hybrid Service サーバの URL : <b>https://vchs.vmware.com</b>
ユーザー名	vCloud Hybrid Service のユーザー名。電子メールアドレス (user@company.com など) を指定します。
パスワード	vCloud Hybrid Service のパスワード。

- 5 [OK] をクリックします。

プラグインから vCloud Hybrid Service への接続が実行され、クラウド インベントリが表示されます。左側のナビゲーション ペインで、[vCloud Hybrid Service] の [クラウド インスタンス] をクリックし、専用クラウド インスタンスと仮想 / プライベート クラウド インスタンスをすべて表示します。vCloud Hybrid Service Disaster Recovery サービスを購入している場合は、Disaster Recovery のクラウド インスタンスも表示されます。

## vCloud Hybrid Service プラグイン 1.0.0 の vSphere Web Client 5.5 へのインストール

vCloud Hybrid Service プラグインを vSphere Web Client 5.5 で使用するには、プラグインをインストールし、vCloud Hybrid Service アカウントをプラグインに登録する必要があります。また、vCloud Hybrid Service ポータルの SSL 証明書をダウンロードし、vSphere Web Client の信頼されるキーストアにインポートする必要があります。

注意 vSphere Web Client 5.5 には、バージョン 1.0.0 のプラグインのみをインストールできます。それより後のバージョンのプラグインは、vSphere Web Client 5.5 Update 1 以降でのみ使用できます。vSphere Web Client 5.5 Update 1 以降のインストール プロセスは、vSphere Web Client 5.5 のインストール プロセスとは異なる点に注意してください。詳細については「[vSphere Web Client 5.5 Update 1 以降への vCloud Hybrid Service プラグインのインストール \(P. 11\)](#)」を参照してください。

### vSphere Web Client の信頼されるキーストアへの証明書の追加

インストール プロセスの一環として、vCloud Hybrid Service ポータル (<https://vchs.vmware.com>) の SSL 証明書を、vSphere Web Client の信頼されるキーストアに追加する必要があります。この証明書は、プラグインが、タスク情報を提供する通知サービスに接続する際に必要となります。

#### 手順

- 1 <https://vchs.vmware.com> に移動し、Web ブラウザからサイトの証明書をダウンロードします。

**vchs.cer** という名前で証明書を保存します。

注意 証明書をエクスポートする際は、[Base-64 encoded x.509] オプションを必ず選択してください。

オプション	説明
Firefox	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ URL フィールドの鍵アイコンをクリックし、[詳細情報] をクリックします。</li> <li>■ [セキュリティ] タブで、[証明書の表示] をクリックします。</li> <li>■ [詳細] タブで、[エクスポート] をクリックします。</li> <li>■ <b>vchs.cer</b> という名前でファイルを保存し、[X.509 Certificate (PEM)] と入力します。</li> </ul>
Internet Explorer	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ URL フィールドの鍵アイコンをクリックし、[証明書の表示] をクリックします。</li> <li>■ [詳細] タブで [ファイルにコピー] をクリックし、ウィザードに従って証明書をエクスポートします。</li> <li>■ 形式として [Base-64 encoded X.509 (.CER)] を選択し、ファイルに <b>vchs.cer</b> という名前を付けます。</li> </ul>
Chrome	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ URL フィールドで鍵アイコンをクリックします。</li> <li>■ [接続] タブで、[証明書情報] をクリックします。</li> <li>■ [詳細] タブで [ファイルにコピー] をクリックし、ウィザードに従って証明書をエクスポートします。</li> <li>■ [Base-64 encoded X.509 (.CER)] 形式を選択し、ファイルに <b>vchs.cer</b> という名前を付けます。</li> </ul>

- 2 vSphere Web Client の信頼されるキーストアに証明書を追加します。

- Windows の場合は、次のコマンドを使用します。



- 5 (オプション) インストール スクリプトでプラグインをダウンロードするのではなく、自分でプラグインをダウンロードする場合は、次の手順を実行します。
  - a [vCloud Hybrid Service vSphere Client プラグインのダウンロード ページ](#)に移動します。
  - b `vchsplugin-1459641.zip` ファイルをダウンロードして、`/opt/vmware/vchsplugin` などの新規ディレクトリにコピーします。
- 6 インストール スクリプトが格納された `bin` ディレクトリ (`/opt/vmware/scripts/vchspluginscript/bin` など) に移動し、スクリプトを実行します。
  - Linux の場合は `sh vchsPluginInstall.sh` を実行します。
  - Windows の場合は `vchsPluginInstall.bat` を実行します。
- 7 スクリプトのプロンプトに従います。
  - a **yes** と入力して EULA に同意します。
  - b **1** と入力してプラグインをインストールします。
  - c 「Enter the vCenter server URL」のプロンプトで、vCenter Server の URL を `https://<vCenterIpAddressOrFQDN>` という形式で入力します。(例: `https://10.10.10.10`)。
  - d vCenter Server のユーザー名とパスワードを指定します。
  - e 「Enter the installation directory of the vSphere Web Client」のプロンプトで、vSphere Web Client インストール ディレクトリへのパスを入力します。  
Linux の場合、このパスは通常 `/usr/lib/vmware-vmware-vmware-client` です。  
Windows の場合、このパスは通常 `C:\Program Files\VMware\Infrastructure\VMwareWebClient` です。
  - f 「Have you downloaded the plugin already?」のプロンプトで、**yes** または **no** と入力します。
    - **no** と入力した場合は、次の情報を指定します。
      - 1 プラグインをダウンロードおよび解凍するディレクトリへのパスを入力します。このディレクトリに他のファイルやディレクトリが含まれていないことを確認してください。
      - 2 プラグインのダウンロード元 URL [] を入力します。
      - 3 プロキシ サーバ経由で URL にアクセスする必要がある場合は、「Is proxy required to download the plugin」のプロンプトで [yes] と入力します。それ以外の場合は **no** と入力します。
      - 4 必要に応じてプロキシ サーバ情報を指定します。プロキシ サーバに認証が必要な場合は、ユーザー名とパスワードを指定します。
    - **yes** を指定した場合は、ダウンロードしたプラグインの zip ファイルへのフル パスを入力します。
  - g vSphere Web Client の信頼されるキーストアに vCloud Hybrid Service ポータルの SSL 証明書をインポートした場合は、「Have you imported the certificate」のプロンプトで **yes** と入力します。それ以外の場合は、**no** と入力します。

---

注意 証明書は、今インポートしなくても、プラグインを使用する前にインポートする必要があります。そうしないと、プラグインでタスク情報が使用できません。

---

- h **yes** と指定した場合は、証明書のインポートに使用したエイリアス名を入力します。
- i **yes** と入力して vSphere Web Client を再起動します。

インストール スクリプトにより、vSphere Web Client サーバが再起動し、vCloud Hybrid Service プラグインが vSphere Web Client に追加されます。



- 4 [vCHS アカウントの登録] ダイアログ ボックスで、以下の情報を入力します。

オプション	説明
vCHS サーバ	vCloud Hybrid Service サーバの URL : <b>https://vchs.vmware.com</b>
ユーザー名	vCloud Hybrid Service のユーザー名。電子メールアドレス (user@company.com など) を指定します。
パスワード	vCloud Hybrid Service のパスワード。
プロキシ設定	<p>インストールされている vSphere がプロキシ サーバ経由でインターネットにアクセスする場合は、[プロキシ設定] をクリックして次の情報を入力し、[OK] をクリックします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ プロキシ サーバの IP アドレスおよびそれを実行するポート。</li> <li>■ プロキシ サーバのユーザー名およびパスワード (認証が必要な場合)。</li> </ul>

- 5 [OK] をクリックします。

vCloud Hybrid Service アカウントに関連付けられているすべてのクラウド インスタンスが表示されます。専用クラウドおよび仮想プライベートクラウドのすべてのインスタンスを確認できます。



## vCloud Hybrid Service アカウントの要求

---

vCloud Hybrid Service vSphere Client プラグイン を vSphere Web Client で使用するには、vCloud Hybrid Service アカウントが必要です。プラグインはインストール済みでも、アカウントをまだ持っていない場合は、プラグインからアカウントを要求できます。

---

注意 このリンクはまだ利用できません。

---

### 手順

- 1 vSphere Web Client にログインします。
- 2 [ホーム] ページで、使用中の vSphere Web Client のバージョンに適したオプションを選択します。
  - vSphere Web Client 5.5 Update 1 で、[インベントリ]にある [vCloud Hybrid Service] アイコン (  ) をクリックします。
  - vSphere Web Client 5.5 Update 2 以降の場合は、[インベントリ]の [ハイブリッドクラウド] アイコン (  ) をクリックします。
- 3 [サマリ] タブで、[アクション] メニューの [アカウントの要求] を選択します。
- 4 ページに表示される指示に従って、アカウントを取得してください。

### 次に進む前に

アカウントを作成したら、そのアカウントを vCloud Hybrid Service vSphere Client プラグイン に登録します。詳細については、[\[vCloud Hybrid Service アカウントの登録 \(P. 18\)\]](#) を参照してください。



# vCloud Hybrid Service プラグインのアップグレード

# 5

vSphere Web Client 5.5 Update 1 以降にインストールされている、vCloud Hybrid Service プラグインの任意のバージョンからアップグレードを行えます。利用可能な更新は、vSphere Web Client に表示されます。

この章では次のトピックについて説明します。

- [vCloud Hybrid Service プラグインのアップグレードについて \(P. 27\)](#)
- [vCloud Hybrid Service プラグインのアップグレード \(P. 27\)](#)

## vCloud Hybrid Service プラグインのアップグレードについて

アップグレードは、vSphere Web Client 5.5 Update 1 以降にインストールされた vCloud Hybrid Service プラグイン 1.0.1 以降のバージョンで使用可能です。

vSphere Web Client 5.5 Update 1 以降では、vCloud Hybrid Service プラグイン用の更新が使用可能になると、その更新が、プラグインの [はじめに] ページの [基本タスク] に表示されます。現在インストールされているバージョン、それが最新版かどうか、およびダウンロード可能な更新があるかどうかが表示されます。常に最新バージョンのプラグインにアップグレードしてください。

使用可能な最新の更新のみが表示されます。以前の更新を適用したかどうかにかかわらず、必ず最新バージョンにアップグレードしてください。たとえば、バージョン 1.5.0 がインストールされている場合、バージョン 1.6.0 が使用可能になると、それが [はじめに] ページにリストされます。バージョン 1.6.0 をインストールしたかどうかにかかわらず、バージョン 1.7.0 が使用可能になると、バージョン 1.7.0 のみがアップグレード可能なものとしてリストされます。

**注意** vSphere Web Client 5.5 でインストールしたバージョン 1.0.0 からアップグレードすることはできません。アップグレードは vSphere Web Client 5.5 Update 1 以降でインストールされたバージョン 1.0.1 以降でのみ行うことができます。

vCloud Hybrid Service プラグイン 1.0.0 を vSphere Web Client 5.5 にインストールし、その後 vSphere Web Client 5.5 を 5.5 Update 1 以降にアップグレードした場合は、アップグレード後も引き続きプラグインが表示されます。しかし、プラグインのバージョン 1.0.0 は vSphere Web Client 5.5 Update 1 以降とは互換性がありません。この場合、まずプラグインのバージョン 1.0.0 を、このバージョンと一緒に提供されているスクリプトを使用して vSphere Web Client からアンインストールし、次に、vSphere Web Client 5.5 Update 1 以降で入手可能な vCloud Hybrid Service プラグイン インストーラを使用してプラグインの最新バージョンをインストールします。詳細については [第 6 章 「vCloud Hybrid Service プラグイン 1.0.0 のアンインストール \(P. 31\)」](#) を参照してください。

## vCloud Hybrid Service プラグインのアップグレード

vSphere Web Client 5.5 Update 1 以降では、vCloud Hybrid Service プラグイン用の更新が使用可能になると、その更新が、プラグインの [はじめに] ページの [基本タスク] に表示されます。現在インストールされているバージョン、それが最新版かどうか、およびダウンロード可能な更新があるかどうかが表示されます。常に最新バージョンのプラグインにアップグレードしてください。

詳細については [「vCloud Hybrid Service プラグインのアップグレードについて \(P. 27\)」](#) を参照してください。

## 開始する前に

- My VMware アカウント。

インストーラでは、My VMware にログインし、プラグインの最新バージョンをダウンロードするため、認証情報が必要です。

- Single Sign-on 管理者権限のある vCenter Server アカウント (administrator@vsphere.local など)。

注意 Active Directory を使用してユーザーを管理する場合は、プラグインのインストールまたはアップグレードに使用するユーザー アカウントに対して次を実行してください。

- Active Directory ユーザーを Active Directory グループのメンバーとして追加します。
- その Active Directory グループを Administrators@vsphere.local グループのメンバーとして追加します。

これは、プラグインのインストールまたはアップグレードに必要な権限を取得するために必要です。

- vCenter Server からのインターネット接続。

vCenter Server からインターネットに接続できるように、vCenter Server のネットワークをセットアップする必要があります。vCloud Hybrid Service プラグインをダウンロードするため、プラグインのインストーラを My VMware REST API エンドポイントに接続する必要があります。トラブルシューティングの情報については、「[\[インストールに失敗しました\] エラー \(P. 39\)](#)」を参照してください。第 2 章「[システム要件 \(P. 9\)](#)」も参照してください。

- My VMware にアクセスするためにプロキシ サーバを経由する必要がある場合は、vSphere Web Client のプロキシを設定します。「[プロキシ設定の指定 \(P. 14\)](#)」を参照してください。

## 手順

- vCenter Server Single Sign-on 管理者権限 (administrator@vsphere.local など) を使用して、vSphere Web Client にログインします。
- vSphere Web Client の [ホーム] ページで、使用中の vSphere Web Client のバージョンに適したオプションを選択してください。
  - vSphere Web Client 5.5 Update 1 で、[インベントリ] にある [vCloud Hybrid Service] アイコン  をクリックします。
  - vSphere Web Client 5.5 Update 2 以降の場合は、[インベントリ] の [ハイブリッドクラウド] アイコン  をクリックします。
- vCloud Hybrid Service の [はじめに] ページにある [基本タスク] で、[最新の更新をインストール] をクリックします。
- [vCloud Hybrid Service プラグインのインストール] ダイアログ ボックスで、次の手順を実行します。
  - My VMware のユーザー名およびパスワードを入力します。
  - チェック ボックスを選択して、vCloud Hybrid Service プラグインの使用条件に同意します。
  - [Install] をクリックします。

ダウンロードが完了すると、ページ上部にあるメッセージバーに、「Log out and log back in to complete the installation.」というメッセージが表示されます。

注意 「Installation failed. Try installing again.」というエラーが表示されたら、vCenter Server がインターネットに接続できるかどうかを確認してください。トラブルシューティング情報については、「[\[インストールに失敗しました\] エラー \(P. 39\)](#)」を参照してください。

- vSphere Web Client からログアウトし、再度ログインします。ここでは、任意のユーザー ロールでログインできます。
- [ホーム] ページの [インベントリ] で、vSphere Web Client のバージョンに応じ、[vCloud Hybrid Service] プラグインのアイコン  または [ハイブリッドクラウド] アイコン  をクリックします。

- 7 [サマリ] タブをクリックして、更新したプラグインに vCloud Hybrid Service アカウントを登録します。



# vCloud Hybrid Service プラグイン 1.0.0 の アンインストール

# 6

vCloud Hybrid Service プラグイン 1.0.0 を vSphere Web Client からアンインストールするには、プラグインのインストールに使用した `vchsPluginInstall` インストール スクリプトを使用します。このスクリプトは、アンインストール オプションも提供します。

場合によっては、プラグインのアンインストールが必要になります。たとえば、プラグインのバージョン 1.0.0 を vSphere Web Client 5.5 にインストールしていて、その後 vSphere Web Client を 5.5 Update 1 以降にアップグレードした場合、プラグインは引き続き vSphere Web Client に表示されたままになります。しかし、プラグインのバージョン 1.0.0 は vSphere Web Client 5.5 Update 1 以降とは互換性がありません。バージョン 1.0.0 をアンインストールし、次に、vSphere Web Client の [ホーム] ページで入手できるインストーラを使用して最新バージョンをインストールします。

注意 vSphere Web Client 5.5 Update 1 以降にインストールされた、バージョン 1.0.1 のプラグインはアンインストールできません。

## 開始する前に

次のことを確認します。

- vSphere Web Client と vCenter Server のインスタンスがインストールされているマシンにアクセスできる。
- 管理者ロール、またはエクステンションの権限が含まれる任意のロールを持った vCenter Server アカウントがある。
- vSphere Web Client を再起動するために必要なスクリプト ファイルを実行する権限を持っている。これらのスクリプト ファイルは、vSphere Web Client のルート ディレクトリの `server/bin` ディレクトリにあります。たとえば、`/usr/lib/vmware-vsphere-client/server/bin` ディレクトリに対する権限が必要になります。
- PATH 環境変数に Java が指定されている。

## 手順

- 1 vSphere Web Client と vCenter Server がインストールされたマシンにログインします。
- 2 ダウンロードして解凍したインストール スクリプトが格納されている `bin` ディレクトリに移動します (`/opt/vmware/scripts/vchspluginscript/bin` など)。
- 3 スクリプトを実行します。
  - Linux の場合は `sh vchsPluginInstall.sh` を実行します。
  - Windows の場合は `vchsPluginInstall.bat` を実行します。
- 4 `2` と入力して、アンインストール オプションを選択します。
- 5 「Enter vCenter URL」のプロンプトで、プラグインがインストールされている vCenter Server の URL を入力します。 `https://<vCenterIpAddressOrFQDN>` の形式を使用します (例: `https://10.10.10.10`)。
- 6 vCenter Server のユーザー名とパスワードを入力します。

- 7 「Enter installation directory of the vSphere Web Client」で、vSphere Web Client のインストール ディレクトリへのパスを入力します。  
Linux の場合、このパスは通常 `/usr/lib/vmware-vmware-client` です。  
Windows の場合、このパスは通常 `C:\Program Files\VMware\Infrastructure\vsphereWebClient` です。  
プラグインがアンインストールされます。
- 8 「You need to restart vSphere Web Client.Restart now?[Yes/No]」のプロンプトで、**yes** と入力します。

## 例: プラグインのアンインストール

```
vCHS Plugin Installer
Select Option [1 - Register Plugin, 2 - Unregister Plugin]: 2
Enter vCenter URL [e.g. https://vCenter IP or FQDN]: https://10.10.10.10
Enter Username: admin
Enter Password: *****
Enter root directory of the vSphere Web Client: /usr/lib/vmware-vmware-client
Removing plugin directory....
Plugin directory deleted successfully.
Removing ....
You need to restart vSphere Web Client.Restart now?[Yes/No] yes
Stopping vSphere Web Client....
vSphere Web Client stopped.
Starting vSphere Web Client....
Server restart initiated successfully.Please wait till the server
starts.
```

## ログ ファイルの使用

---

ログに含まれる情報を使用して、vCloud Hybrid Service プラグインで発生した問題のトラブルシューティングを行えます。プラグイン用のログ情報は、デフォルトで、vSphere Web Client ログ ファイル (**vsphere\_client\_virgo.log**) に保存されます。プラグインのログ情報のみを格納するプラグイン専用のログファイル **vCHS.log** を作成することも選択できます。また、**vCHS.log** ファイルに記録する情報のレベルを指定することもできます。

---

注意 プラグイン用に個別のログ ファイルを作成する機能は、バージョン 1.5 以降で利用できます。それより前のバージョンでは、ログ情報は常に vSphere Web Client ログ ファイルに格納されます。

---

この章では次のトピックについて説明します。

- [使用するログ ファイルの指定 \(P. 33\)](#)
- [vCHS.log ファイルのログ重大度レベルの設定 \(P. 36\)](#)
- [ログ ファイルの表示 \(P. 36\)](#)

### 使用するログ ファイルの指定

vCloud Hybrid Service プラグインのログ情報の保存場所を指定することができます。

選択できるオプションには、次のものがあります。

- vSphere Web Client ログ ファイルの **vsphere\_client\_virgo.log** を使用する。
- vCloud Hybrid Service プラグイン用に別のログ ファイルを作成する。
- ログ情報を vSphere Web Client ログ ファイルと vCloud Hybrid Service プラグイン ログ ファイルの両方に保存する。

デフォルトでは、ログ情報は vSphere Web Client のログ ファイルに保存されます。

## vCloud Hybrid Service プラグイン用の vSphere Web Client ログ ファイルの使用

デフォルトでは、vCloud Hybrid Service プラグインのログ情報は、vSphere Web Client のログ ファイルである **vsphere\_client\_virgo.log** に保存されます。プラグインのログ情報は **com.vmware.vcim** というプリフィックスで識別できます。

### 手順

- 1 vSphere Web Client のログ ファイルを見つけます。

オペレーティング システム	ログ ファイルの場所
Linux	/usr/lib/vmware-vmware- client/server/serviceability/logs/vsphere_client_virgo.log
Windows	C:\ProgramData\VMware\vSphere Web Client\serviceability\logs\vsphere_client_virgo.log 注意 VMware ディレクトリの場所は、Windows OS のバージョンによって異なる場合があります。アプリケーションデータやプログラムデータのフォルダで、VMware ディレクトリを探します。

- 2 ファイルを表示し、**com.vmware.vcim** というプリフィックスを検索します。

## vCloud Hybrid Service プラグイン用カスタム ログ ファイルの作成

vSphere Web Client ログ ファイルを使用する代わりに、vCloud Hybrid Service プラグインのログ情報のみが格納されるプラグイン専用のログ ファイルを個別に作成できます。vCloud Hybrid Service プラグインのログ ファイルは、**vCHS.log** という名前で、vSphere Web Client ログ ファイルと同じ場所に格納されます。

ログ情報の保存先として、**vCHS.log** ファイルのみを選択することも、**vCHS.log** ファイルと vSphere Web Client ログ ファイル (**vsphere\_client\_virgo.log**) の両方を選択することもできます。

これらのログ ファイルは、両方とも、次の場所にあります。

オペレーティング システム	ログ ファイルの場所
Linux	/usr/lib/vmware-vmware-client/server/serviceability/logs
Windows	C:\ProgramData\VMware\vSphere Web Client\serviceability\logs 注意 VMware ディレクトリの場所は、Windows OS のバージョンによって異なる場合があります。アプリケーションデータやプログラムデータのフォルダで、VMware ディレクトリを探します。

また、**vCHS.log** ファイルに記録する情報のレベルを指定することもできます。デフォルト レベルは **INFO** です。ログを VMware テクニカル サポートに送る場合には、**DEBUG** を使用します。

### 手順

- 1 <vSphereWebClientInstallDir>/vmware-vmware-client/server/configuration ディレクトリに移動します。  
Linux の場合、<vSphereWebClientInstallDir> は、通常、/usr/lib/ になります。
- 2 **serviceability.xml** ファイルを編集のために開きます。

- 3 このファイルの最後の `<appender>` 要素の後に、次の `<appender>` 要素を追加します。

```

<!-- 記録用 appender を作成。vCHS のすべてのログ記録は、この xml を経由してルーティングされる。 -->

<appender name="vCHS_LOG_FILE"
class="ch.qos.logback.core.rolling.RollingFileAppender">
<!-- ログが保存される場所の、Virgo Server への相対パス。 -->
<file>serviceability/logs/vCHS.log</file>
<rollingPolicy class="ch.qos.logback.core.rolling.FixedWindowRollingPolicy">
<FileNamePattern>serviceability/logs/vCHS_%i.log.zip</FileNamePattern>
<MinIndex>1</MinIndex>
<MaxIndex>4</MaxIndex>
</rollingPolicy>

<triggeringPolicy
class="ch.qos.logback.core.rolling.SizeBasedTriggeringPolicy">
<MaxFileSize>10MB</MaxFileSize>
</triggeringPolicy>
<encoder class="ch.qos.logback.classic.encoder.PatternLayoutEncoder">
<!-- ログ ファイル内のログ エントリのパターン -->
<Pattern>[%d{yyyy-MM-dd HH:mm:ss.SSS}] [%-5level] %-28.28thread
%X{sessionGuid} %-64.64logger{64} %X{medic.eventCode} %msg %ex%n
</Pattern>
</encoder>
</appender>

```

- 4 このファイルの最後の `<logger>` 要素の後に、次の `<logger>` 要素を追加します。

```

<logger level="INFO" additivity="false" name="com.vmware.vcim">
<appender-ref ref="vCHS_LOG_FILE" />
</logger>

```

- 5 `vCHS.log` ファイルに加えて `vSphere Web Client` ログファイルにもログ情報を格納する場合は、新しい `<logger>` 要素で、`additivity="false"` を `additivity="true"` に変更します。

- 6 このファイルのログ重大度レベルをデフォルトの `INFO` から変更する場合は、新しい `<logger>` 要素で `logger level="INFO"` の値を変更します。

この値は、`"ERROR"`、`"WARN"`、または `"DEBUG"` に変更できます。

- 7 `vSphere Web Client` を再起動します。

- Linux の場合は、次のコマンドを使用します。

```
service vsphere-client restart
```
- Windows の場合は、次のコマンドを使用します。

```
sc restart vspherewebclientsvc
```

## vCHS.log ファイルのログ重大度レベルの設定

vCHS.log ファイルにログの重大度レベルを設定して、ログ ファイルに保存する情報のレベルを制御することができます。たとえば、レベルを **ERROR** に設定してエラー情報だけを記録したり、**DEBUG** に設定してログ ファイルを VMware のテクニカル サポートに送ることができます。

### 手順

- 1 <vSphereWebClientInstallDir>/vmware-vmware-client/server/configuration ディレクトリに移動します。

Linux の場合、<vSphereWebClientInstallDir> は、通常、/usr/lib/ になります。

- 2 **serviceability.xml** ファイルを編集のために開きます。

- 3 次の行を探します。

```
<logger level="INFO" additivity="false" name="com.vmware.vcim">
<appender-ref ref="vCHS_LOG_FILE" />
</logger>
```

- 4 **logger level="INFO"** の値を、目的の重大度レベルに変更します。

選択できるオプションには、次のものがあります。

<b>エラー</b>	エラーのみを記録します。
<b>警告</b>	エラーと警告を記録します。
<b>情報</b>	エラー、警告、および情報提供目的のメッセージを記録します。
<b>デバッグ</b>	エラー、警告、情報提供目的のメッセージに加え、デバッグ情報を記録します。ログを VMware テクニカル サポートに送信する場合は、このレベルを使用してください。

## ログ ファイルの表示

vCloud Hybrid Service プラグインのログ情報は、vCloud Hybrid Service プラグイン インスタンスのログ ファイル設定に応じ、vSphere Web Client ログ ファイル、別個の vCloud Hybrid Service プラグイン ログ ファイル、またはそれらの両方に記録されます。

ログ ファイル設定の詳細、およびログ レベルの調整方法については、『vCloud Hybrid Service vSphere Client プラグインのインストールと構成』の[ログ ファイルの使用](#)を参照してください。

### 手順

- 1 次のディレクトリに進みます。

OS	場所
Linux	/usr/lib/vmware-vmware-client/server/serviceability/logs
Windows	C:\ProgramData\VMware\vSphere Web Client\serviceability\logs 注意 VMware ディレクトリの場所は、Windows OS のバージョンによって異なる場合があります。アプリケーションデータやプログラムデータのフォルダで、VMware ディレクトリを探します。

- 2 vCloud Hybrid Service プラグイン インスタンスに使用されているログファイルを表示します。
  - vSphere Web Client のログファイルの名前は **vsphere\_client\_virgo.log** です。プラグインのログ情報は **com.vmware.vcim** というプリフィックスで識別できます。
  - vCloud Hybrid Service プラグインのログファイルの名前は **vCHS.log** です。このファイルに記録されるのはプラグインのログ情報のみです。



## トラブルシューティング

この情報を使用して、vCloud Hybrid Service プラグインのインストールおよび構成に伴う問題をトラブルシューティングします。

『vCloud Hybrid Service vSphere Client プラグインの使用』の[トラブルシューティング](#)セクションも参照してください。

この章では次のトピックについて説明します。

- 「インストールに失敗しました」エラー (P. 39)
- インストール中またはアップグレード中の「認証に失敗しました」エラー (P. 41)
- 同じ SSO サービスを共有する複数の vSphere Web Client インスタンス (P. 41)

### 「インストールに失敗しました」エラー

vSphere Web Client 5.5 Update 1 以降で、vCloud Hybrid Service プラグインをインストールまたはアップグレードできません。

#### 問題

vSphere Web Client Update 1 以降でプラグインをインストールまたはアップグレードしようとすると、「**Installation failed. Try installing again.**」というエラーが表示されます。

#### 原因

この問題は、vCenter Server がインターネットに接続できない、または vCloud Hybrid Service プラグインのインストーラがプラグインをダウンロードする My VMware REST API エンドポイントに接続できない場合に発生します。インターネットに接続できるように vCenter Server をセットアップする必要があります。詳細については、[第 2 章「システム要件 \(P. 9\)」](#)を参照してください。

#### 解決方法

- 1 vCenter Server がインターネットに接続できることを確認します。
- 2 vCenter Server がホスト `svcgw.vmware.com` に接続できることを確認します。  
例： `ping svcgw.vmware.com`
- 3 接続のホップ数を確認します。任意のユーティリティを使用できます。  
例： `tracert svcgw.vmware.com`
- 4 接続をブロックしているファイアウォールがないかどうかを確認します。
- 5 上記の問題を解決したら、インストールをやり直してください。

- 6 それでもエラーになる場合は、任意の REST クライアントを使用して、vCenter Server が My VMware REST API エンドポイントに接続できるかどうかを確認します。

<https://svcgw.vmware.com/prod/services/DownloadUrlService/lookupProduct> という URL に接続できるはずですが、次のリクエストで同様の応答を得られるはずですが。

[申請]

```
<ProductsLookupRequest xmlns="productlookup.generic.com/types">

<RequestId>1001</RequestId>

<RequestTimeStamp>2002-05-30T09:00:00</RequestTimeStamp>

<ProductVersion>5.5.0.0</ProductVersion>

<ProductName>vcenter-server</ProductName>

<CompatibleProductVersion></CompatibleProductVersion>

<CompatibleProductName>hybrid-cloud-plugin-1</CompatibleProductName>

<LastSyncDate>2002-05-29T09:00:00</LastSyncDate>

</ProductsLookupRequest>
```

[応答]

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8" standalone="yes"?>

<productLookupResponse

xmlns="productlookup.generic.com/types">

<ResponseId>1001</ResponseId>

<ResponseTimeStamp>2014-05-04T22:47:54.189-07:00</ResponseTimeStamp>

<ProductVersion>5.5.0.0</ProductVersion>

<ProductName>vcenter-server</ProductName>

<CompatibleProductsList>

<CompatibleProduct>

<filename>vchsplugin-1628768.zip</filename>

<name>hybrid-cloud-plugin-1</name>

<sha1Checksum>5a3c499f65985ebf07ba32d9928c0cda01a46a1b</sha1Checksum>

<version>1.0.1.0</version>

</CompatibleProduct>
```

```
</CompatibleProductsList>
```

```
</productLookupResponse>
```

## インストール中またはアップグレード中の「認証に失敗しました」エラー

vCloud Hybrid Service プラグインのインストールまたはアップグレードができず、ログ ファイルに認証エラーが表示されます。

### 問題

vSphere Web Client 5.5 Update 1 以降で、vCloud Hybrid Service プラグインをインストールまたはアップグレードできません。vsphere\_client\_virgo.log ファイルに次のエラーが表示されます。

```
[WSC-BIZ-001 Authentication failure.]
```

### 原因

このエラーは、ユーザー名とパスワードが My VMware サービスで解決できなかったことを示しています。次のような場合に、この状態になる可能性があります。

- My VMware に誤ったユーザー名とパスワードを入力した場合。
- プロファイルに不一致がある (My VMware アカウントのプロファイル情報が不足している) 場合。
- My VMware サービスに、一時的な問題が発生している場合。

### 解決方法

My VMware アカウントのプロファイルを表示して、プラグインのインストール中に自分のアカウントに対して正しいユーザー名とパスワードを入力したことを確認します。それでも問題が解決しない場合は、My VMware サービスで一時的な問題が発生している可能性があるため、インストールまたはアップグレードを後でやり直してください。

## 同じ SSO サービスを共有する複数の vSphere Web Client インスタンス

複数の vSphere Web Client インスタンスで同じ SSO サービスを共有すると、プラグインが一部のインスタンスにのみインストールされている場合、ログ ファイルに例外が表示されます。

### 問題

注意 この情報は、vSphere Web Client 5.5 Update 1 以降にインストールされている vCloud Hybrid Service プラグインに適用されます。

同じ SSO サービスを共有する複数の vSphere Web Client インスタンスがあり、vCloud Hybrid Service プラグインが少なくとも 1 つのインスタンスにインストールされているが、すべてのインスタンスにはインストールされていない場合、vSphere Web Client ログ ファイル vsphere\_client\_virgo.log に次のような例外が表示されます。

```
[ERROR] lookup-service-pool-11 70000058 100003 200001
com.vmware.vise.vim.lookup.impl.LookupServiceExtensionManager
Error unzipping file:///Users/user/vmw/serenity-client/server/work/tmp/vchs-
pckg2126733793255829687.zip
java.io.FileNotFoundException: \Users\user\vmw\serenity-client\server\work\tmp\vchs-
pckg2126733793255829687.zip
(The system cannot find the path specified) at java.io.FileInputStream.open(Native
Method) at java.io.FileInputStream.<init>(Unknown Source)
at java.io.FileInputStream.<init>(Unknown Source) at
sun.net.www.protocol.file.FileURLConnection.connect(Unknown Source)
at sun.net.www.protocol.file.FileURLConnection.getInputStream(Unknown Source) at
java.net.URL.openStream(Unknown Source) at
```

```
com.vmware.vise.vim.lookup.impl.LookupServiceExtensionManager.writePackageToFile(LookupServiceExtensionManager.java:384) at
com.vmware.vise.vim.lookup.impl.LookupServiceExtensionManager.downloadPackage(LookupServiceExtensionManager.java:333) at
com.vmware.vise.vim.lookup.impl.LookupServiceExtensionManager.downloadAndAddPackage(LookupServiceExtensionManager.java:294) at
com.vmware.vise.vim.lookup.impl.LookupServiceExtensionManager.access$100(LookupServiceExtensionManager.java:55) at
com.vmware.vise.vim.lookup.impl.LookupServiceExtensionManager$1.call(LookupServiceExtensionManager.java:250) at
com.vmware.vise.vim.lookup.impl.LookupServiceExtensionManager$1.call(LookupServiceExtensionManager.java:247) at
java.util.concurrent.FutureTask.run(Unknown Source) at
java.util.concurrent.ThreadPoolExecutor.runWorker(Unknown Source) at
java.util.concurrent.ThreadPoolExecutor$Worker.run(Unknown Source) at
java.lang.Thread.run(Unknown Source)
```

この例外は、プラグインがインストールされていない vSphere Web Client インスタンスにユーザーがログインすると発生します。

#### 原因

vSphere Web Client インスタンスにプラグインをインストールすると、プラグイン インストーラによって vSphere Web Client のローカル ファイル システムにプラグイン ファイルがダウンロードされ、Lookup Service に登録されます。vSphere Web Client の 1 つのインスタンスの登録が他の vSphere Web Client インスタンスに表示されますが、ファイルが見つかりません。

#### 解決方法

この例外は無視してかまいません。すべての vSphere Web Client インスタンスに vCloud Hybrid Service プラグインをインストールすると、例外は表示されなくなります。ただし、必須ではありません。

# インデックス

## C

コンポーネント 13

## S

SSL 証明書 17, 19

## V

vCloud Hybrid Service アカウント、登録 18, 22

vSphere Web Client 5.5 U1 以降へのインストール 11, 15

vSphere Web Client 5.5 へのインストール 19, 20

## あ

アカウント

取得 25

登録 18, 22

アカウントの要件 9

アップグレード 27

アンインストール 31

## い

インストール 11

インターネット接続 9, 13

## え

エラー

インストールに失敗しました 39

認証の失敗 41

## か

概要 7

## し

システム要件 9

証明書 17, 19

序文 5

## せ

接続の要件 9

## と

トラブルシューティング、ログ ファイルの例外 41

## ふ

ファイアウォール設定 9

ブラウザ要件 9

プロキシの設定 9, 14

## ろ

ログイン、アカウントの登録 18, 22

ログ ファイル

vCHS.log ファイルの作成 34

vSphere Web Client ログ ファイルの使用 34

重大度レベルの設定 36

使用するファイルの指定 33

表示 36

